

104 豚コクシジウム病

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --> B["(4) 糞便検査"] C["(2) 臨床検査"] --> D["(3) 剖検"] C -- "(死亡豚)" --> D D -.-> E["(病変部粘膜)"] E -.-> B D --> F["(5) 簡易原虫検査"] D --> G["(6) 病理組織検査"] B -- "(+)" --> H["(+)"] B -- "(-)" --> I["(-)"] F -- "(+)" --> J["(+)"] F -- "(-)" --> K["(-)"] G -- "(+)" --> L["(+)"] G -- "(-)" --> M["(-)"] </pre>
病性鑑定施設	<p>(6) 病理組織検査</p> <p>(+) (-)</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に糞便検査、場合により簡易原虫検査の結果により本病とする。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 77 伝染性胃腸炎 ② 80 豚流行性下痢 ③ 87 豚ロタウイルス病 ④ 98 豚大腸菌症
⑤ 73 サルモネラ症 ⑥ 105 豚鞭虫症

○ 病原体: *Isoospora suis*、*Eimeria scabra*、*E. deblickei*

(1) 疫学調査

- ① 幼若個体に好発(哺乳期から)
② ときに死亡が認められる。
(*I. suis* 感染の哺乳豚)

(5) 簡易原虫検査

病変部粘膜の塗抹ギムザ染色標本または生鮮標本で原虫の検出(特に *I. suis* 感染症は生前診断が困難)

(2) 臨床検査

- ① 下痢(*I. suis* 感染では灰白色～黄白色水様便で異臭を放ち気泡を大量に含む。)
② 一般症状の悪化
③ 抗生物質への無反応

(6) 病理組織検査

I. suis 感染では、主に空腸から回腸の絨毛先端部に様々な発育ステージのコクシジウム寄生を伴う小腸炎がみられ、ときに絨毛の萎縮や線維素性壊死性腸炎が認められる。

(3) 剖 検

幼弱豚での *I. suis* の重篤感染例では空腸および回腸粘膜の線維素を伴う壊死

(参考文献)

・Lindsay, D.S., et al. In: Diseases of Swine (Zimmerman, J.J., et al. eds.), 10th ed. 895-899, Wiley-Blackwell, Iowa (2012).

(4) 糞便検査

- ① オーシストの検出
② 増殖期原虫の検出(糞便の塗抹、生鮮標本)